

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬	写真・後藤
山行 NO.	2004	
日時	2022年12月03日(土) 晴れ	
山域	小金沢連峰・滝子山(1590m・寂梢尾根)～大谷ヶ丸(1644m)	
コース	長泉5:30-桜森林公園7:20-寂梢尾根-滝子山11:02-A班・大谷ヶ丸3名、B班・防火帯で昼食-大谷ヶ丸12:15～13:20(昼食)下山開始-事故13:57～ヘリピックアップ15:27-山田車鍵届ける-コンドウ丸14:14-曲り沢峠14:27-桜森林公園16:26-甲府中央病院-長泉	
標高差	上り 桜森林公園約600m～滝子山1590m=約990m 滝子山最低コル約1500m～大谷ヶ丸1644m=約144m	
藪漕度	なし	
難易度	非常に困難    困難    やや困難    レ普通    やや易しい    易しい	
<b>落ち葉のラッセルとカラマツの風音</b>		
参加者	後藤、加藤、井上、勝又、合谷、伊藤ち、斎藤、山田敬=8名	

今回の山行は、前日まで大山の予定であった。しかし大山の天気あまりよくないため、大月・滝子山に変更。

地図読みの訓練も山行目的であったため、印刷した地図と YAMAP を見ながら行程をイメージ。

滝子山までは尾根を進み、帰りは沢沿いを戻るルート。ただ滝子山からあとの行程が長いからお昼を早めに済ませないと、下山が暗くなるだろうと想定。



似たモノ同士

桜森林公園に車を停めて、7時20分出発。大鹿川をすぐに右に入り、尾根に入る。少し



紅葉が見られるかと期待したが、赤や黄色の葉は見当たらず。赤いのは私のシャツの色くらいだ。代わりに茶色い落ち葉が山道に積もっている。

落ち葉を踏みしめる音とともに登り始める。サクッサクッという音も晩秋を感じさせて良い。が、結構落ち葉の量が多いので、滑る。落ち葉には油分があるようで、それが潤滑油となって滑る原因になるようだ。

転ばないように注意して少し登ると鉄塔が立って開けたところに出る。歩き出して暑くなったので、皆、上着を脱いで登りやすい格好に着替える。その時、後から来た見事なアフロヘアの方と出会う。すごい頭だねと皆がその人に集まり、アフロに触らせてもらう。落ち葉よりふかふかだ。気さくな方で我が山の会のアフロ隊長、加藤さんとも気軽に記念撮影に応じてくれた。あとでYAMAPを見たら、彼もYAMAPユーザーで彼の山行の記録写真の中に加藤さんとの2ショットも入っていた。



素晴らしい尾根

落ち葉の道を登って1000mを超えてくるあたりから、木々も少なくなり足元は岩場に。振返ると富士山が見える。やや雲にかかって、全景は拝めなかったが、少しでも見るとありがたい。岩場は玄武岩なのか安山岩なのかわからないが、比較的大きな岩が積み重なっている。

私はこういう岩場は足の長さを生かして一気に登りたいタイプなので、スピードが上がる。しかし、小柄な方だと難所である。所々ペースを合わせながら、進む。





岩場

しばらく寂梢尾根の岩場が続き、やっと登り切ったと思ったところで右手に折れる。ここから東向きにアップダウンを経て、滝子山山頂を目指す。

この向きだと北風と南風を左右から受ける。左手から来る北風は冷たく、時折、右手から吹いてくる南風は、陽の暖かさがある。利き酒ならぬ「利き風」体験で、やっぱり北風って冷たいなぁと当たり前を体験学習する。

11時、滝子山山頂到着。地味な山だと勝手に思っていたが、結構、いろんな人が登ってくる。後藤さんに聞いたら、中央線の笹子駅から登山口から近いから、東京方面からも電車で来やすいそうだ。確かに都会風の若い人が多かった。

ここでお昼かなと思ったら後藤さんが、井上さんと私はこの先の大谷ヶ丸まで行って、そこで昼食にしたらと提案。少し大回りして、途中で皆と合流するルートだ。先週、宝永山で雪山訓練をしたので、感覚的にはまだいける。じゃあ行きますかと、大谷ヶ丸をめざす。

道中のカラマツの自然林の景色が青い空に映えてきれいだった。ここまで来る人は少ないのか、一帯は私と井上さんの落ち葉を踏む音だけ。この静寂も贅沢だ。そんなことを感じながら歩いていると、後ろからガッサガッサと、人が近づく音が。振り返ると後藤さんが「おーい」とやってきていた。

ということで、後藤さん合流で、3人で大谷ヶ丸を目指し、12時15分到着。加藤さんの





京都のお土産「にごり酒・さかの」や、おでん料理をいただき、後藤さん差し入れの焼き鳥のハツを井上さんがコンロで焼いてくれて、おつまみに一杯。最高にうまい！とはいえ、他メンバーの行程を考えると大回りしている分、そんなにゆっくりしてはいられない。



大谷ヶ丸

下山開始。コンドウ丸手前で後藤さんが転倒。頸椎を痛め、両腕にモーレツな痛み・シビレを負った。結果的に、日没が遠くなく、頭部負傷の緊急性があり、苦渋の決断でヘリ救助を119番にIが依頼。

## 救助状況（Iの報告と写真）

13:57 転倒

14:23 コンドウ丸頂上で119番通報。両手両腕にテーピング。鎮痛剤を2錠目、3錠目飲むが効かない。その後、携帯電話が完全に圏外になり救助が来るかどうか不明のため自力で下ることにした。

15:14 曲り沢峠でまで下山したところで、ヘリがコンドウ丸上空に到着

15:19 救助員がヘリから下降し現場到着

15:27 後藤さんがヘリに上げられる。山梨県立中央病院に搬送すると伝えられた。後藤さんのザックは救助員の一人が背負いヘリで運搬。ストックは持って下山してくれとのことだった。

### 後藤報告

16:00 過去、3回仲間のヘリ救助は経験したが、自身は初めて。ヘリから降りて来た、山梨県消防防災航空隊の若い奈良さんにテキパキ指示される。

「腕だけは絶対離さないでください」と言われピックアップ。ワイヤー一本の空中遊泳はスリリングだった。目を転じると甲斐駒がイヤに尖がっていた。これは現実か。夢なら覚めて欲しかった。

数分で山梨県立中央病院ヘリポート着。腕のシビレは酷かった。車椅子で運ばれ緊急入院。各検査を行った。結果、頸椎損傷を確認。ただ、緊急手術は不要だった。翌々日、退院。地元病院で継続加療。年末、手術入院予定。

今回、山梨の方には、病院でも随分お世話になった。皆さん優しくイイ方だった。今まで悪口を言って、ゴメンナサイ。







私は車の鍵B班に届ける任務で一人下山。を曲り沢峠を下るが、落ち葉ラッセルの急な下りなので、つるつる滑って非常に危険。九十九折りのルートになっているが、途中、一度滑り落ちてしまった（その分、ショートカットで下れたから結果的にはよかった）。

靴のエッジも効かせられないし、なかなか難儀した。予定ルートのすみ沢に降りてからは、だらだら坂をくだる感じなので、ひたすら降りる。結局、加藤さんチームとは、途中合流できず、1時間遅れで到着となった。

今回は行程だけでなく、いろいろなバリエーションのある山行でした。

